

レジメンcode:	C25-11
適応がん種:	膀胱癌
レジメン名:	オニバイド+I-LV+5-FU-IF(インフューザー)
間隔:	2週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	オニバイド(イリノテカンとして)	[*1]70	mg/m ²	点滴(90分)	d1
I-LV	レボホリナート	200	mg/m ²	点滴(2時間)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	2400	mg/m ²	点滴(46時間)	d1

[*1]UGT1A1*6若しくはUGT1A1*28のホモ接合体、又はヘテロ複合体を有する患者ではオニバイドとして1回50mg/m²を開始用量とする。忍容性が認められる場合、70mg/m²に増量することができる。

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	20ml	1 A		
				ポート確認
2) パロノセトロン	0.75mg	1 V		
デキサート	6.6mg	1 V		
デキサート	3.3mg	1 A		
ブスコパン	20mg	1 A		
生食	50ml	1 本		
	主管①	点滴	15 分	
3) 生食	50ml	1 本		
	主管②	点滴		フラッシュ用
4) 生食	50ml	1 本		
	▶側管①			プライミング用
5) オニバイド		70[*1] mg/m ²		(イリノテカンとして)
生食	500ml	1 袋		【ケモセーフ使用】
	▶側管②	点滴	90 分	インラインフィルター使用不可
6) 生食	50ml	1 本		
	▶側管③	点滴		フラッシュ用
7) レボホリナート		200 mg/m ²		
生食	250ml	1 袋		
	主管③	点滴	2時間	オニバイド投与終了後に開始
8) 生食	50ml	1 本		
	主管④			フラッシュ
9) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m ²		
生食	100ml	総液量140ml になるように調製		
	主管⑤	点滴	46時間	
				(インフューザー)

<所要時間 - >

次ページあり

day3

1) ヘパリンNaロック 10ml 1 筒

ルートロック

〈所要時間 - 〉

*オニバイドは混和後速やかに投与すること。やむをえず保存する場合は遮光した上で室温で保存する場合には6時間以内、2～8℃で保存する場合には24時間以内に投与すること。

*オニバイドはインラインフィルター使用不可。

●投与再開時の減量基準

前回の投与後に以下のいずれかの程度に該当する副作用が発現した場合は、以下の減量方法に従って減量する。

副作用	程度 ^{注1)}	減量方法 ^{注2)}
好中球減少	Grade3以上又は発熱性好中球減少症	本剤及びフルオロウラシルを1段階減量する
白血球減少	Grade3以上	
血小板減少		
下痢		
悪心／嘔吐	Grade3以上 ^{注3)}	本剤を1段階減量する
その他 ^{注4)}	Grade3以上	本剤及びフルオロウラシルを1段階減量する

注1) GradeはCTCAE version 4.0に準じる。

注2) レボホリナートは減量しないことが望ましい。

注3) 適切な制吐療法にもかかわらず発現した場合。

注4) 無力症及び食欲減退を除く。

●減量時の投与量

	本剤 (イリノテカンとして)		フルオロウラシル
開始用量	70mg/m ²	50mg/m ²	2,400mg/m ²
1段階減量	50mg/m ²	43mg/m ²	1,800mg/m ²
2段階減量	43mg/m ²	35mg/m ²	1,350mg/m ²
3段階減量	中止	中止	中止